



ご卒園・修了おめでとうございます



園内に差し込むやわらかな陽射しが、今年度の残りわずかな時間をそっと包み込んでくれている気がします。進級や入学を心待ちにしているお友達…。ひとつお兄さんお姉さんになる喜びを、それぞれに感じているようです。

卒園を迎えたお友達は、こども園で過ごした日々の中で「生きる力」を体いっぱい詰めて、今日の卒園を迎えたことでしょうか。お家の皆さまの温かい愛情とお友達との「絆」が大地に根を張った大樹の芽となり、様々な経験を積み重ねてきた今、枝を広げた大樹になろうとしているように思います。その経験の中には、絵本を手にする体験もあり、「読む」「見る」だけでなくお友達や先生、お家のみなさんと同じ思いを共感できた喜びがきっとあったことと思います。絵本の中の主人公になって日常では味わえないワクワク感も体験できた積み重ねが、お友達の「生きる力」となり、夢や希望の糧となっていくのでしょうか。



「卒園」は嬉しくもありちょっと寂しくもあり…。お友達がこれからの日々で大きな樹となりきれいな花を咲かせ、甘い果実をたくさん実らせてくれることを信じています。



読み聞かせ活動にご協力いただきありがとうございました！



「家読の樹」

本題：「家読」とは、つむぎコーション

「家読」は、親子の絆を深め、温かい時間と空間を共有することで読書の良さを改めて確認することができます。

画：「読み聞かせ」という関わり
読み聞かせは、子どもの想像力を育て、主人公への共感や理解を育てます。

「家読」の力

- 読者の寛容
- 集中力
- 想像力
- 思考力
- 読者のコントロール
- 文字への興味・関心
- 読解力が身に付く
- 人を思いやる気持ち
- 他人へのいたわり
- 野望心
- 善悪の区別
- 様々な感情の体験

雨や日の光という刺激を受け、子どもの樹は愛情という土壌の中で大きく成長し、枝葉を広げ、甘くて大きな果実を実らせませす。

「読書好きな子どもの木」
親や大人の「愛情の土壌」によって、大きく枝葉が広がって心豊かな人間（樹木）へと成長します。

「愛情という土壌」
親の愛情は、子どもの心への土壌を耕し、大きな樹木の成長を支えます。この土壌は、親や周囲の大人が子どもにどう関わるかで大きく変わり、樹木へたくさんの栄養を届けることができます。

1月から始まった園内図書のパロネ者の皆さまへの貸し出し事業ですが、3月10日をもちまして、本年度の貸し出しは終了となりました。3月10日までの貸し出し冊数は、延べ150冊を超える冊数となり、ご家庭での絵本の読み聞かせ時間にお役に立てたことを本当に嬉しく思います。

また、お忙しいお家の皆さまにも、お子さんとの「家読」時間を作っていただきましたことを心より感謝申し上げます。

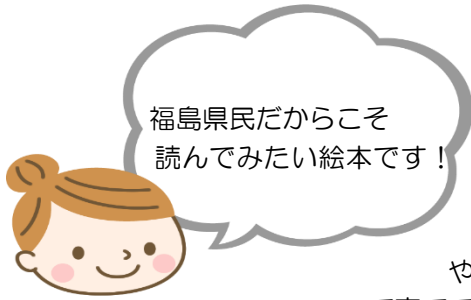
お友達にとっての「心の栄養補給」は、お家の皆さまとの温かな空間と絵本の持つ「力」だと改めて感じています。本当にありがとうございました。

令和3年度は、さらに新刊絵本が増える予定です。貸し出しについては、6月ごろから再開したいと計画しておりますので、今しばらくお待ちくださいね！

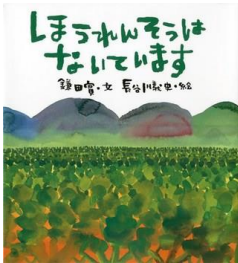
語り継ぐために…

東日本大震災から10年という年月が経ちました。お家の皆さまにとっても大変お辛いご経験だったことと
思います。こども園のお友達は、幸いにもこの時には誕生していませんでしたが、先日の大きな地震を経験し
「地震」について関心を持つようになりました。地震のあった週末明けには、園内で地震の際の「身の守り方」
についてのお話を聞き、震災についても知る機会となりました。

10年が経ちテレビから流れてくる震災の映像は、大人にとっても息をのむ怖さを感じます。子供達に私た
ち大人が伝えていくべきことは、怖さを印象付ける映像ではなく、絵本などから語り継いでいく震災への関心
なのかもしれませんね。絵本からは「怖い」という印象ではなく、震災を経験した人達の思いを感じ取れるよ
うに思います。これからも、絵本を通して思いに寄り添える気持ちを育てていきたいですね。



福島県民だからこそ
読んでみたい絵本です！



震災について語り継いでいく絵本はたくさんありますが、今回は私
たち福島県民だからこそ、お友達と一緒に読んでみたい絵本がありま
す。それは、「**ほうれんそうはないです**」という絵本です。

この本の作者は医者であり作家でもある鎌田實さんと絵本作家で
「いいからいいから」などの絵本で知られる長谷川義史さんです。

この絵本は震災のその後を描いていて、「放射能」について子供達に伝わり
やすい表現を用いている絵本です。「おいしくな〜れ！」という気持ちを込め
て育ててきた野菜や牛の生産者の気持ち、「おいしい！」と言ってもらえるはずだ
たほうれん草や牛のやりきれない気持ちを、分かりやすく伝えてくれます。

一生懸命生きてきたほうれんそうのこと、牛乳を飲んでもらいたかった牛のこと、目には
見えない「放射能」のことなど、作者のお二人がこれからの未来に語り継いでいき
たい熱い思いが生んだ絵本です。放射能のことが分からなくても、大変なことが起こっ
たんだということを知るだけで、この絵本と一緒に読む価値があると感じる1冊です。

(★作：鎌田実 ★絵：長谷川義史 ★出版社：ポプラ社)

園長こらむ

こども園の「えほんのもり」は、いつも子供達の笑顔と歓声であふれています。想像の世界を
楽しんだり、先生やお友達と心を通わせたりして、絵本との出会いを喜んでいます。

絵本は子供達が最初に出会う本です。家庭や園で、読み聞かせを繰り返して体験することで、互
いの心を通わせ、安心した生活を送ることができました。保護者の皆様へ絵本の貸し出しを始めて
から、絵本との距離がさらに縮まり、貸し出しノートでも子供達の興味や関心、親子のふれあいが
伝わってきて、とてもうれしく素晴らしいと感じています。

大事な幼少期にお子様と出会って、楽しみを共有できましたこと、私たちの
心も喜びでいっぱいです。保護者の皆様のご理解とご協力で、お子様とともに
素敵な園生活を送れたと思っております。子供達の成長を見ると感動で胸がい
っぱいになり、心から幸せな気持ちになります。これからも子供達とともにた
くさんの絵本とふれあい、絵本生活を楽しんでいきたいと思っております。今日まで
ありがとうございました。

そして、改めてご卒業、修了おめでとうございませう。

園長 芳賀 恵子

